

## 成果の説明書

(氏名) 丸山奈穂	(学部) 地域政策学部
1 重要事項	
① 研究	
<u>調査データの収集</u>	
コロナ禍における旅行者と非旅行者に対してオンライン調査を実施し、旅行に行く、もしくは行かない理由（モラル的な理由、健康上の理由、経済的理由）、旅行に行かない人（行く人）に対する気持ち、行った先での行動などについて探った	
<u>学会発表</u>	
6月にAPTA（Asia Pacific Tourism Association）Conferenceにおいて、上記のデータの分析について発表した。オンラインではあったが、国際学会であり、同様の研究を行っている研究者と意見交換し、他国の状況を知ることができた。	
② 教育	
<u>ハイブリッドによる授業の実施</u>	
コロナ禍において、対面授業を基本としながら、健康上の理由で出席できない学生には同時配信し、教室にいる学生と同様に授業が受けられるように工夫をした。Teamsを使い、教室にいる学生もオンライン受講の学生も発言ができるようにし、人数に合わせてグループを作ってディスカッションやグループプロジェクトを実施した。	
<u>小グループによるディスカッション</u>	
特に演習では、対面授業を安全に実施するためにディスカッションは少人数で行った。1グループ4人程度に分け、グループ研究や卒論を進めた。	
<u>Google Form の活用</u>	
昨年に続き、演習 I（グループ研究）、演習 II（卒業論文）で行う調査はすべて、Google Form を利用して実施した。アンケート作成方法やデータ処理の方法を文書にして配布し、それぞれが資料を確認しながら自主的に進めることができた。遠方にいる人からもデータを収集しやすいという利点を生かし、草津などすぐには訪問できない地域でのデータ収集や、短時間で比較的多くの人数（50名程度）からデータを収集することができた。今後もオンライン調査の利点を生かしていきたい。	
2 その他の事項	
上毛新聞オピニオン委員（2021年9月～）	
3 次年度以降の計画・抱負	
次年度も、しばらくは感染症対策をしながらの講義、調査になることが考えられるので、少人数でできるところは実施するなど工夫をしたい。学生には対面での調査を経験させたい。また、ポストコロナにおける観光地の在り方を考える機会を授業にとりいれたい。また今の学生は入学時からコロナ禍であり、自身の観光経験がかなり少ない点に配慮し、「なぜ、どのように旅行をするのか」という観光動機や行動について、歴史的な流れとともに今後についての説明を丁寧に行いたい。	